

■第2回大宮駅東口周辺公共施設再編 推進本部会議

【日時】 平成28年3月23日（水） 15時00分～16時00分

【場所】 政策会議室

【出席者】 副市長、技監、都市戦略本部長、財政局長、市民局長

文化部長（スポーツ文化局長代理）

商工観光部長（経済局長代理）、都市局長、大宮区役所区長、副教育長

【議題】 ① 東日本交流拠点の形成について

② 連鎖型まちづくりの役割と各エリアに求められる機能について

③ 今後の進め方について

< 提案説明 >

議題①～③について、事務局（大宮駅東口まちづくり事務所）から次のような説明があった。

① 東日本交流拠点の形成について

- ・ 国土交通省が本年3月末に策定予定である「首都圏広域地方計画」のシンポジウムが2月25日に開催され、清水市長がパネリストとして出席するとともに、80名を超える大宮の地元まちづくり関係者が参加。同計画の内容を広く共有した。
- ・ 同計画では、東日本の各圏域への新幹線が結節する大宮が、リニア中央新幹線の発着が予定され西日本への玄関口となる品川に並び、東日本への玄関口となる拠点として機能強化を図ることが大きく位置づけられる。
- ・ 同計画を受け、今後の大宮のまちづくりを進める前提条件が大きく変わったことから、大宮駅東口公共施設再編推進本部（以下、「推進本部」という。）では、東日本の各圏域を支えるという大きな役割を実現することを目指し、検討を進めることが重要である。

② 連鎖型まちづくりの役割と各エリアに求められる機能について

- ・ 首都圏広域地方計画では、東日本の各圏域を連結・交流する「大宮駅周辺地域」と、国の機能が集結し、災害時の防災バックアップ拠点としての機能強化が進む「さいたま新都心周辺地域」が、国土形成計画における基本コンセプトである「対流促進型国土」の形成を実現する具体的なプロジェクトとされている。
- ・ 大宮駅周辺のまちづくりは、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン（2010）」に基づき、おもてなしあふれる東日本の顔となるまちを目指し、民・官・学が一体となったまちづくりを推進しているが、今後は、さいたま新都心との連携を強化することについての具体

的な検討が必要。

- また、平成26年度から鉄道事業者との検討が開始された「大宮駅の機能高度化及び周辺整備に向けた検討会」では、さいたま市成長戦略で位置づける「東日本の中枢都市構想：大宮駅グランドセントラルステーション化構想」（以下、「GCS」という。）の実現に向けた、大宮駅直近のまちづくりの検討が進められている。
- 一方で、大宮駅西口では、桜木駐車場用地の利活用に関する検討がされており、大宮駅を中心とした広域拠点整備に向けたまちづくりの具体的な検討が始まった。
- これまでの推進本部では、駅周辺の拠点機能を支える「駅前賑わい拠点」と、さいたま新都心や地域との連携を強化する「地域連携拠点」を位置づけ、検討を行ってきた。
- 「駅前賑わい拠点」の具体的な検討範囲としては、大門町2丁目再開発、大宮区役所の跡地活用、そして大宮小学校といった範囲である。駅前におけるGCSと連携し、大規模な土地活用による拠点性を高める都市機能を導入する拠点として整備を行う。
- また、「地域連携拠点」は、大宮区役所新庁舎が建設される用地や、市民会館おおみやの跡地活用、そしてそれらに隣接する山丸公園が具体的な検討範囲となる。点在する公共施設を「地域連携拠点」に集約し、都市機能の集積や地域間の連携強化に向けた連携・ネットワーク拠点として整備を行う。
- こうしたことから、氷川参道及び氷川神社周辺に点在する図書館や博物館、コミュニティセンター等も対象に加え、検討を進めてきたところ。
- 公共施設再編による連鎖型まちづくりの役割は、公共施設や公共施設跡地などの公的不動産を活用して、都市機能の強化を図ることであるが、一方で、財政的な視点も忘れずに、経済的な合理性も兼ね備えたまちづくりを推進していくことが使命である。

③ 今後の進め方について

- 公共施設再編の方針については、大きなまちづくりや再編の方針を示す「全体方針」と、個別の施設や公共用地について詳細な利活用の方針を示す「個別方針」とに分けて検討を進める。
- 推進本部の役割として、1つ目は、来年度以降も引き続き検討会議を開催し、今後、市民や専門家などの外部意見を導入しながら、「全体方針」を策定していくこと。
- 2つ目は、「全体方針」に基づき、より具体的な「個別方針」を検討していくために、個別事業を推進するプロジェクトチームを立ち上げること。
- スケジュール的には、「全体方針」の策定を短期的な目標とし、「個別方針」の策定や、それに基づく個別の事業の推進を中・長期的な目標として、取り組んでいく考えである。

< 意見等 >

- 従前からのまち並みや景観を、どう継承していくかを大切にしてほしい。大宮を訪れた都市の記憶として残るものは、きっと氷川参道のけやき並木や氷川神社の神々しい景観など。時代に流されない規範となる風景を意識していただきたい。
- まちのシンボルである氷川神社や、サッカーや野球などのイベントで賑わう大宮公園周辺に向けた大宮駅からの動線も、シンボル軸のコンセプトとして強く打ち出すべき。
- 駅前賑わい拠点では、国の位置づける広域交流拠点の形成に向けて、第3次産業の強化が必要であると考えられる。大門町2丁目中地区では、再開発事業が具体的なプロジェクトとして進んでいるが、大宮区役所跡地や隣接する小学校の敷地を活用し、次に何をすべきか、と考えると、今後やるべきことが分かりやすい。
- まちづくりの推進にあたっては、古くからの大宮の佇まいを大切にし、従前居住者の環境の充実も忘れてはならない。今後の本格的な人口減少、そして少子高齢化の時代に、例えば全面的なバリアフリーのように、今後のまちづくりは「人のための空間整備」にシフトしていく必要がある。
- 公共施設の再編や公共施設跡地の利活用にあたっては、民間活力の導入が重要。民間をどう誘導していくかをコンセプトの中に明らかにしていく必要がある。
- 対象施設については、所管の意向も十分踏まえて検討していただきたい。

< その他 >

- 今年度の推進本部会議は今回で最後となるが、来年度も引き続き開催していく。
- 次回は未定であるが、概ね夏頃までには開催する予定。